



一般社団法人 日本環境感染学会

Japanese Society for Infection Prevention and Control

近い将来に想定される DICT活動の実際について

〈30分〉

櫻井 滋

日本環境感染学会 災害時感染制御検討委員会
前 岩手医科大学附属病院 感染制御部

いわて感染制御支援チーム (ICAT)

DICTが必要とされる災害（１）

- **大規模自然災害（主な活動対象）**

- DMATの全国的派遣が検討される災害規模が対象の定義
- 基本は**100名規模以上の公的避難所が開設される状況**
 - 活動要綱 p24-25
 - 支援の必要性は原則的に被災域内DICTが判断する
 - 被災規模に応じ、どの地域の支援DICTが対応するかを判断する
 - まず、PreDICTを派遣して支援の必要性を評価する
 - PreDICTの報告に基づき支援の範囲や形式を協議する
- 災害の種類は問わないが、**原則として自然災害が対象**

DICTが必要とされる場面（2）

- ・ 例外的支援事例

- ・ 各自治体の感染制御支援（平時・特定感染症流行時）

- 基本的には行政（保健所）の所掌事項であるが、技術的支援を要請されることがある。→ COVID-19の集団感染事例（施設内感染）

- ・ 日本医師会からの支援要請（平時・災害時）

- JMATの一員としての技術的支援が要請される場合がある。

- ・ 集団感染事例（検疫中のクルーズ船）における感染制御支援

- 基本的には行政（国・保健所）の所掌事項であるが、学会を通じて技術的支援を要請されることがある。→ COVID-19の集団感染事例

DICTが必要とされる災害（3）

- **感染制御の研修訓練指導（副次的活動対象）**
 - **自治体等の災害対応訓練**や保健所等の研修会支援
 - 支援要請は原則として学会（DICT）本部を通じて受ける
- **被災自治体や厚生労働省、医師会からの研修会支援要請**
 - 地域ごとの要請にも対応することが災害時活動を円滑にする
 - 自治体の災害対応方針を理解し、平時からリスクを洗い出す
 - 避難所設置状況を把握して発災時の活動を円滑にする
 - 災害対応団体との交流を通じて顔が見える関係を構築する

発災後の展開

- あらゆる情報から発災を覚知 →**初動** (活動要綱 p24)
 - ・ 学会本部（事務局）に統括本部を設置
 - ・ 被災域内（ブロック）統括者とPreDICT派遣の要否を協議
- **メーリングリスト**で全登録メンバーと情報共有
 - ・ 被災規模により、対応グループが指定される
- **PreDICTの派遣**（域内・域外でメンバーを指名）
- 派遣メンバーを指定し、派遣方法を検討
 - 自施設の許可**、移動方法の確保、費用支弁、障害保険
 - 発災直後は**ボランティア的な活動**となる場合がある

DICTが必要とされる災害規模

- **大規模自然災害（主な活動対象）**

- DMATの全国的派遣が検討される規模が定義

- 震度 6 弱の地震又は死者数が2人以上 50人未満若しくは傷病者数が 20名以上見込まれる災害であって、100名規模以上の公的避難所が開設された場合 →被災域内DICTが対応
- 震度 6 強の地震又は死者数が2人以上 100人未満若しくは傷病者数が 20名以上見込まれる災害であって、100名規模以上の公的避難所が開設された場合 →被災地に隣接する域内のDICTが対応
- 震度 7 の地震又は死者数が100人以上見込まれる災害の場合、100名規模以上の公的避難所が複数か所開設された場合 →被災地に隣接するブロックのDICTが対応
- 東海地震、東南海・南海地震又は首都直下型地震で、100人規模以上の公的避難所が複数か所開設された場合 →被災地および全国のDICTが対応

DICT ユニットの構成

- 4 名を基本とする。
 - 感染制御医（ICD）1名
 - 感染管理認定看護師（CNIC）1 ないし 2 名
- および
 - 感染制御専門または感染制御認定薬剤師（ICPS, PCI）
 - 感染制御認定微生物検査技師（ICMT）
 - ICT 経験のある歯科医師（ICDD）1名
 - 業務調整員 1名

DICT ユニットの活動内容

- **本部活動**：連絡・指揮調整が主体
 - 情報収集・調査活動 → 支援の必要性を判断し、DICT派遣を計画
- **保健医療調整本部支援活動**：相談（コンサルテーション）・調整
 - 広域 ICT 支援活動 → 全国医療機関・現地ICTからの相談に応じ、
現地のICTを支援
 - 医療機関 ICT 支援活動 → 被災した医療機関のICTを支援
- **被災現地 ICTの支援活動**
 - **避難施設におけるICT活動支援** → DICTの主たる目的（集団感染の抑制）
 - 現地ICTに対する後方支援活動 → 被災地のICTを技術的・物的に支援
 - 衛生資材ロジスティクス → 被災地のICT支援に特化した資機材の斡旋

災害時医療の基本

- | | |
|---------------------------|--------|
| • C : command and control | 指揮, 統制 |
| • S : safety | 安全 |
| • C : communication | 情報伝達 |
| • A : assessment | 評価 |
| • T : triage | トリアージ |
| • T : treatment | 治療 |
| • T : transport | 搬送 |

日本環境感染学会の対応（2）

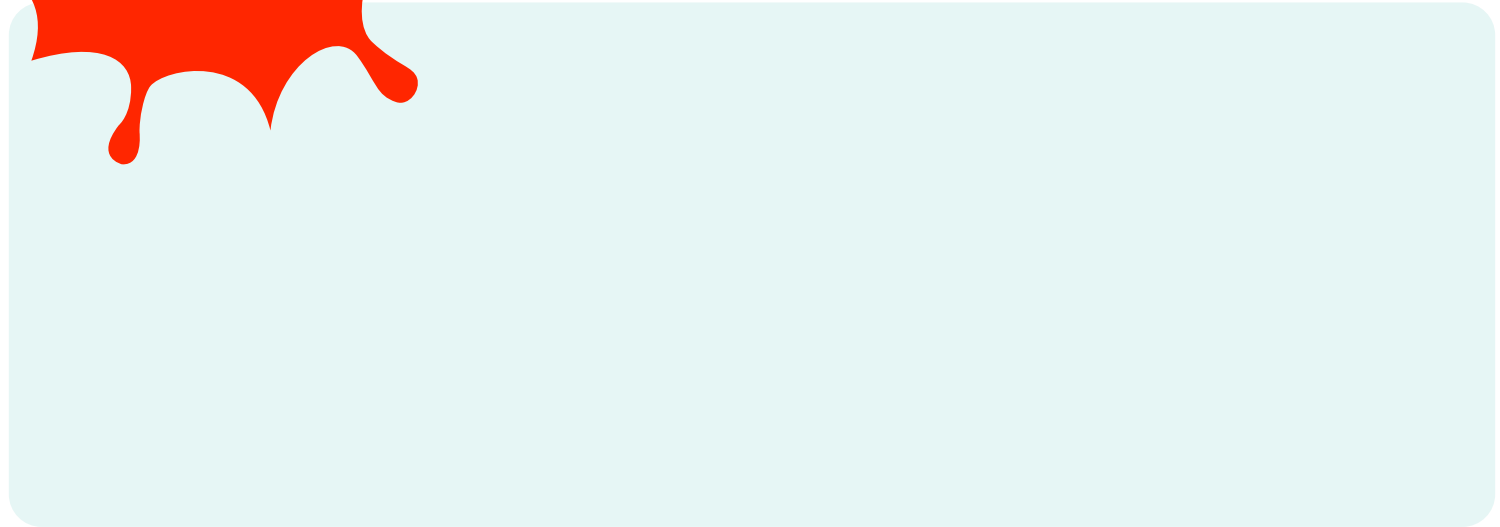
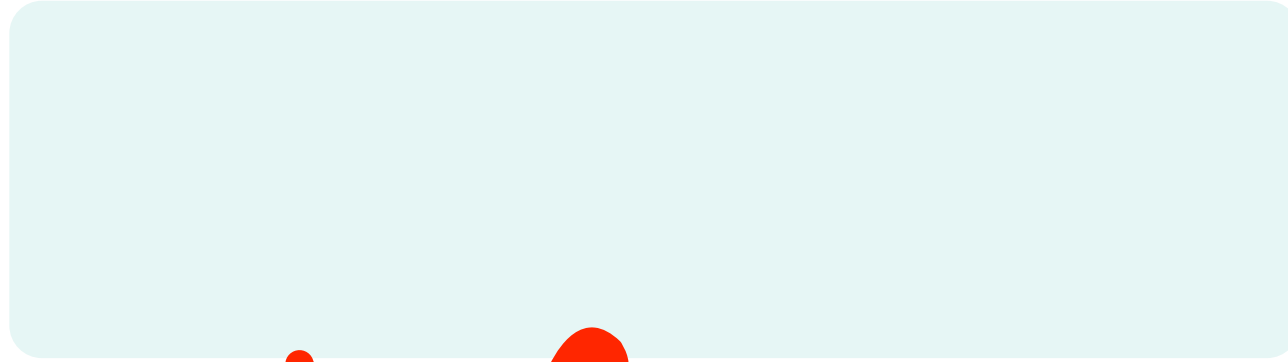
（災害時感染制御支援チーム DICT の編成）

CSCAを基本とする活動

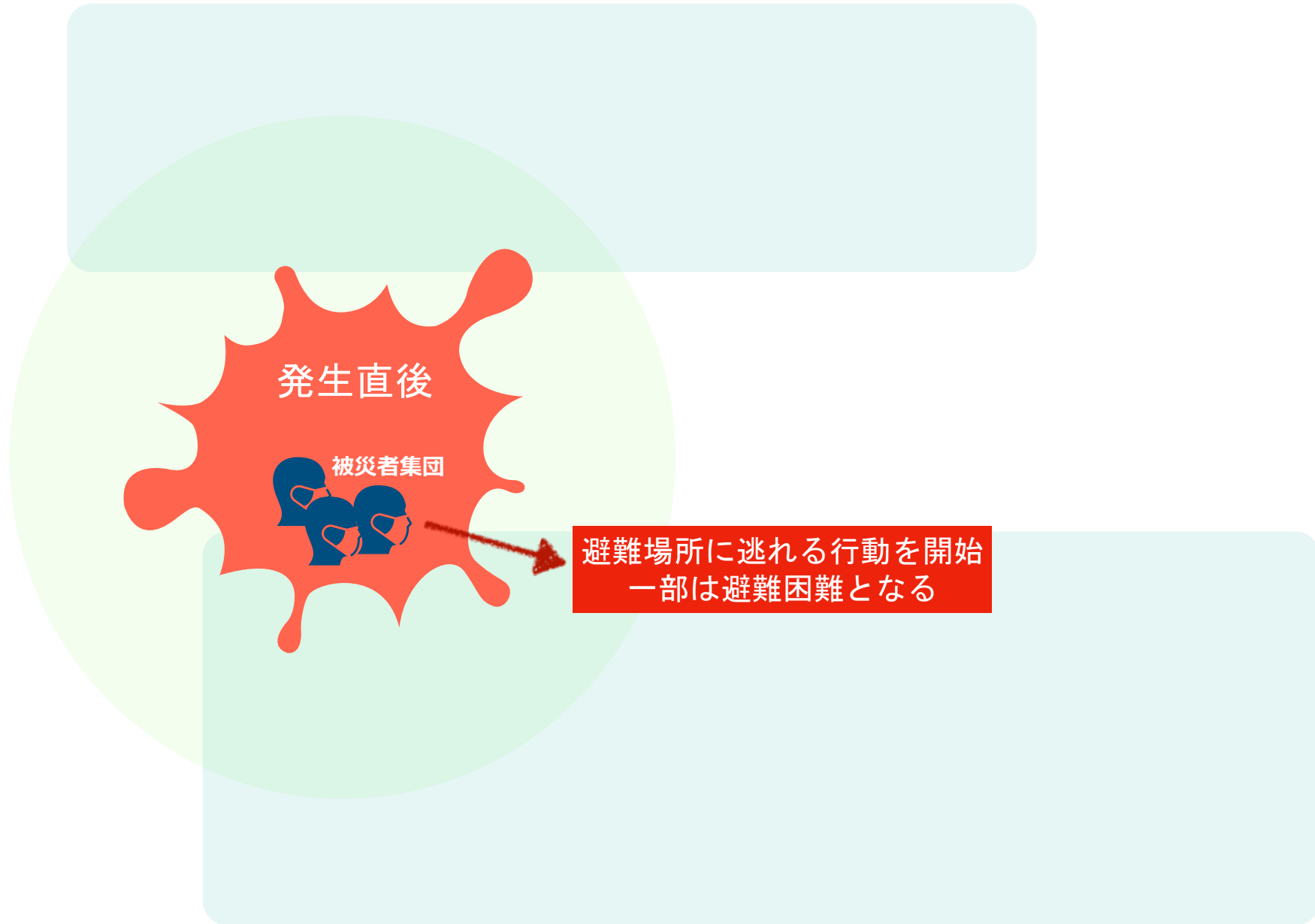
- DICTの活動は避難所における「集団的感染症の未然防止支援」と「発生後の制御活動支援」とする。
- DICTの活動はメンバーの安全確保を最優先する。
- DICTの活動は現地ICTの支援を優先する。
- 医療行為は行わない。
 - ただし、予防接種など感染制御に必要な医療行為を除く

医療機関ICTと同様、直接TTTに介入しないことが原則

環境感染学会による支援範囲のイメージ

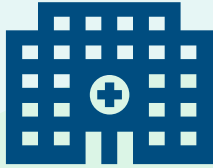


環境感染学会DICTによる支援のイメージ



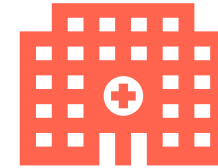
環境感染学会DICTによる支援のイメージ

災害対策本部



医療調整本部

災害拠点病院



災害直後

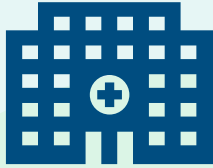
被災者集団



多くは避難場所に逃れる

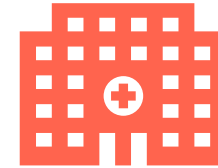
環境感染学会DICTによる支援のイメージ

災害対策本部



医療調整本部

災害拠点病院



災害直後

被災者集団



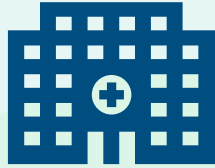
●災害医療チーム（赤十字・DMAT）



多くは避難場所に逃れる

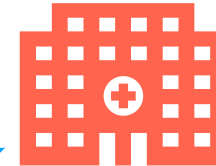
環境感染学会DICTによる支援のイメージ

現地災害対策本部



医療調整本部

災害拠点病院



発災早期

被災者集団



●災害医療チーム（赤十字・DMAT）
医療提供・重症者搬送

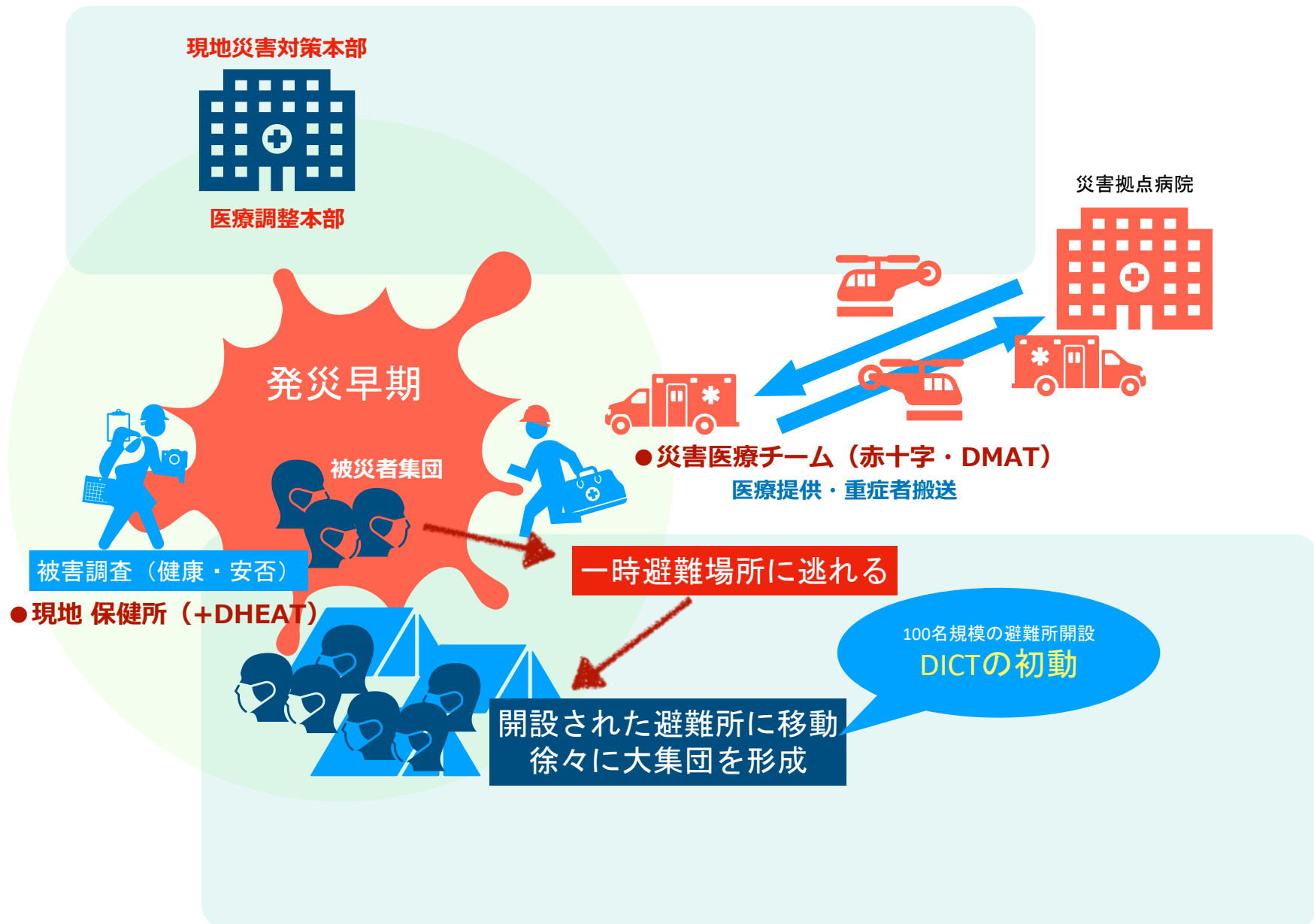


一時避難場所に逃れる

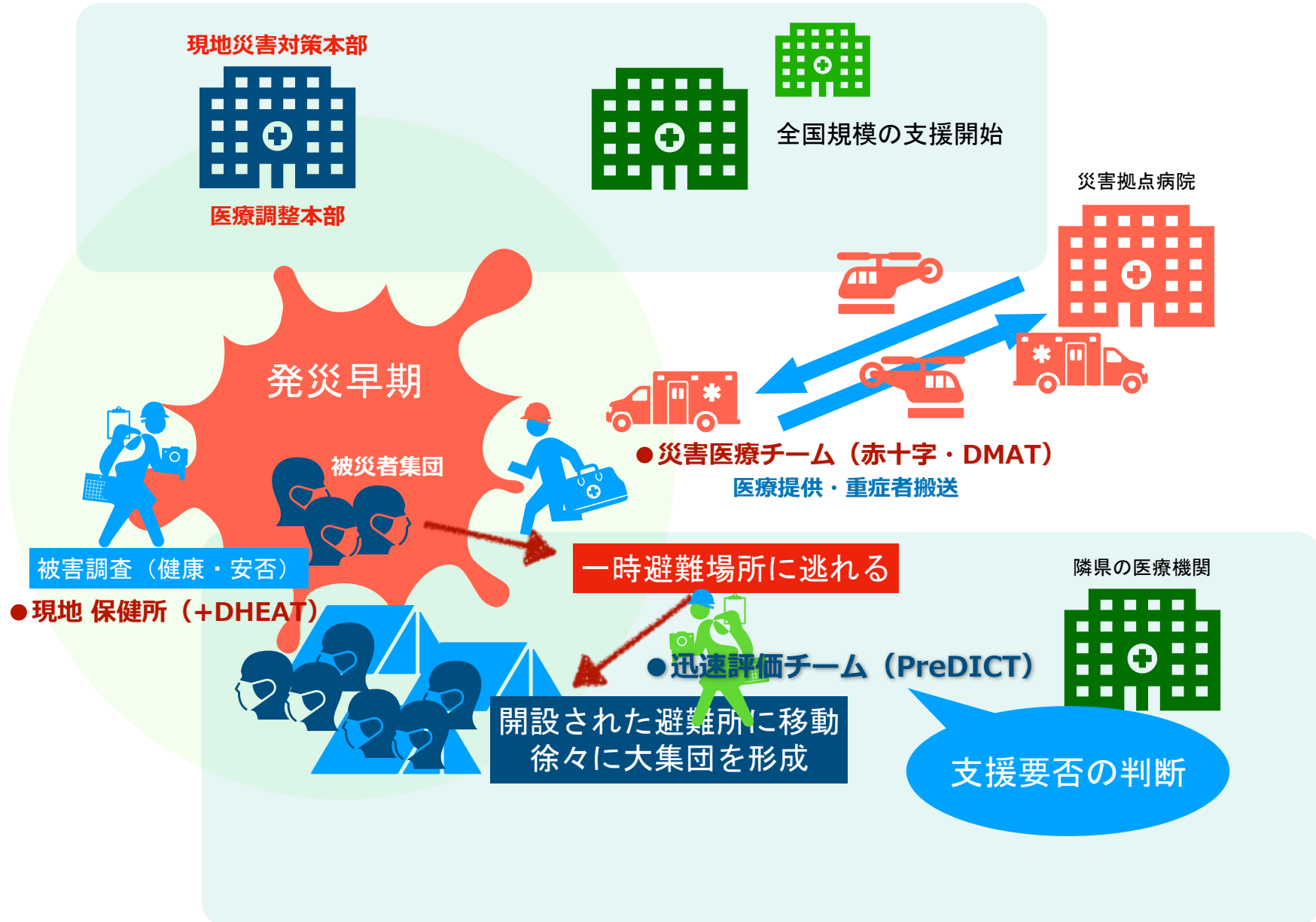


開設された避難所に移動

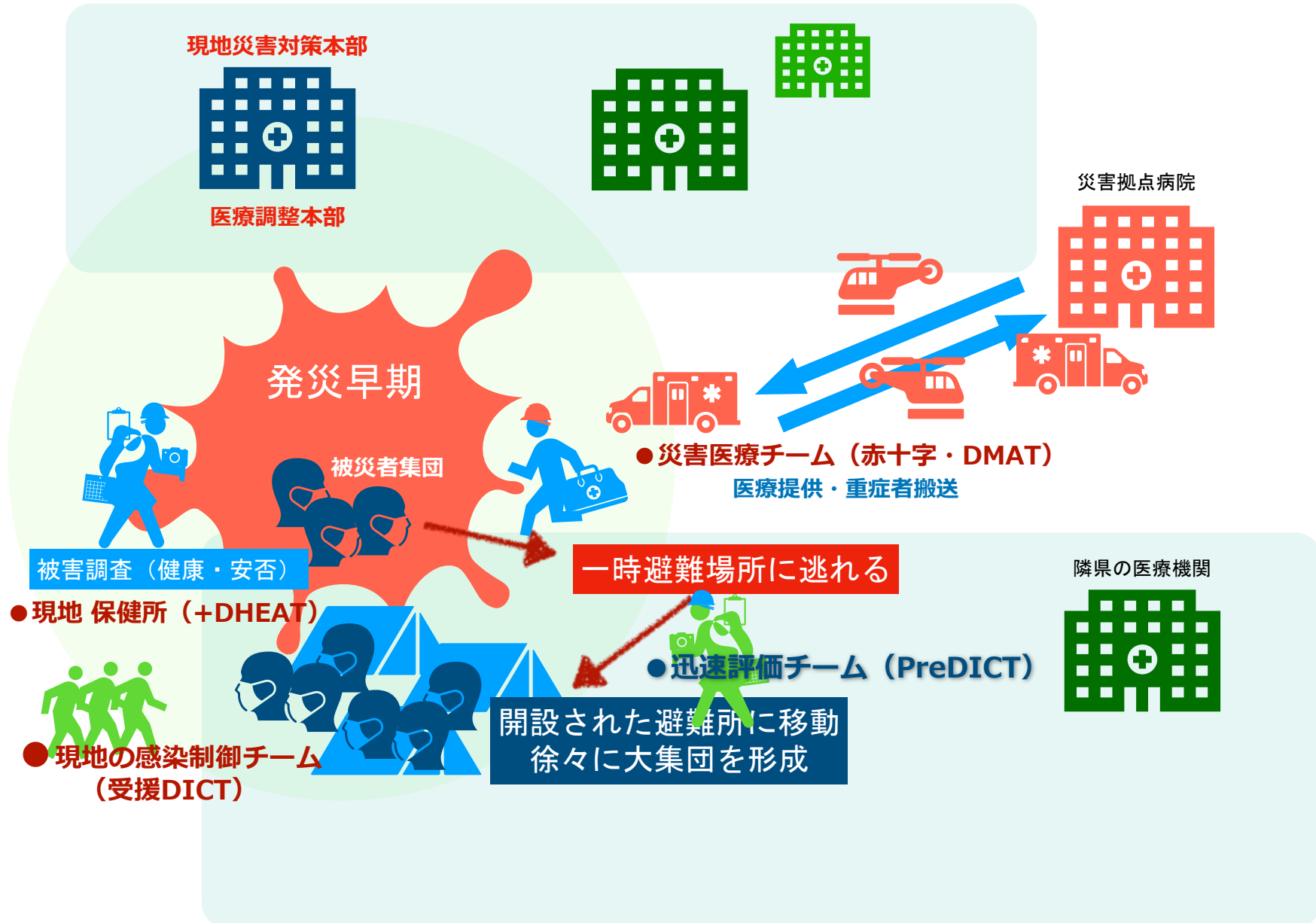
環境感染学会DICTによる支援のイメージ



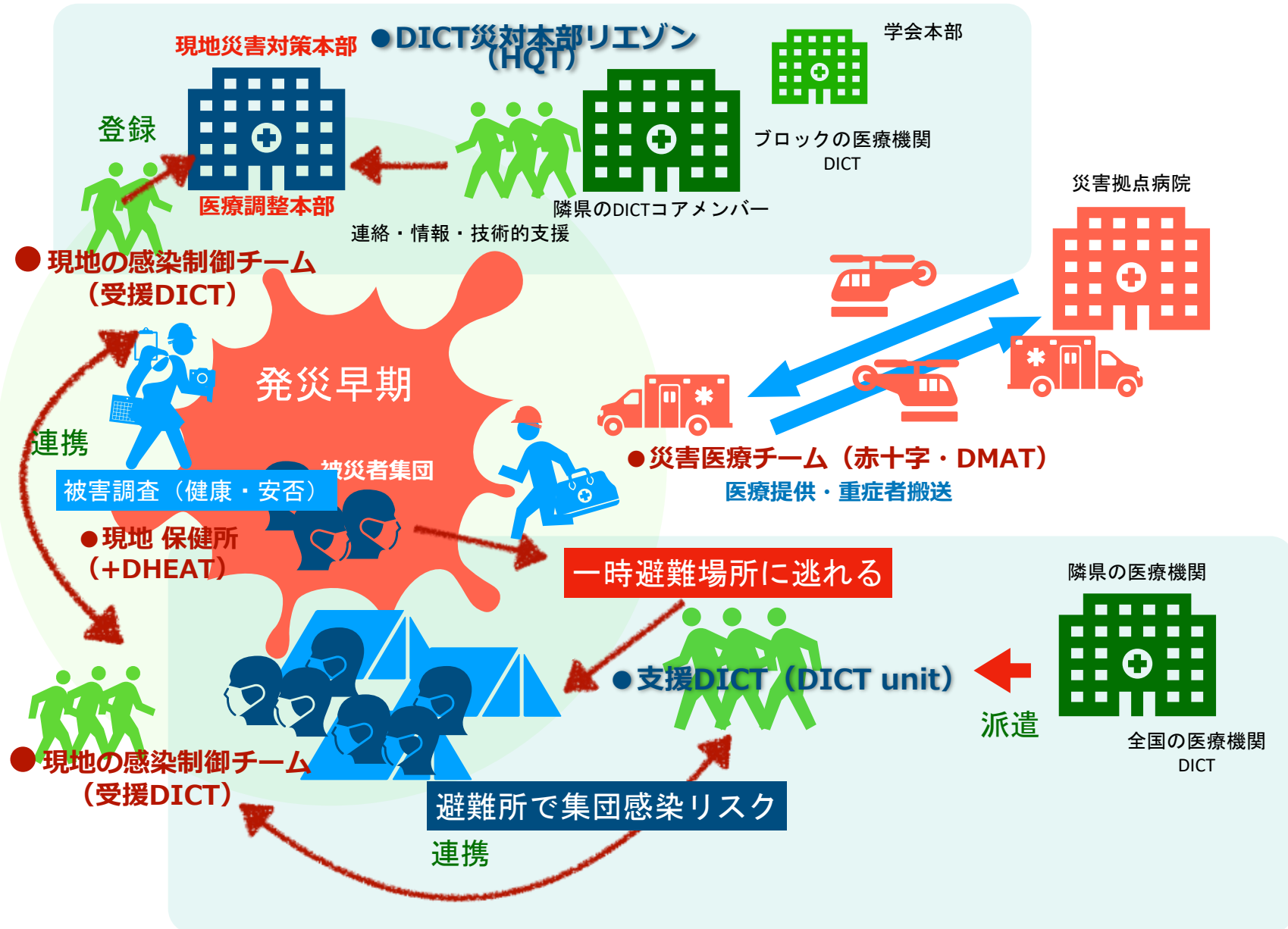
環境感染学会DICTによる支援のイメージ



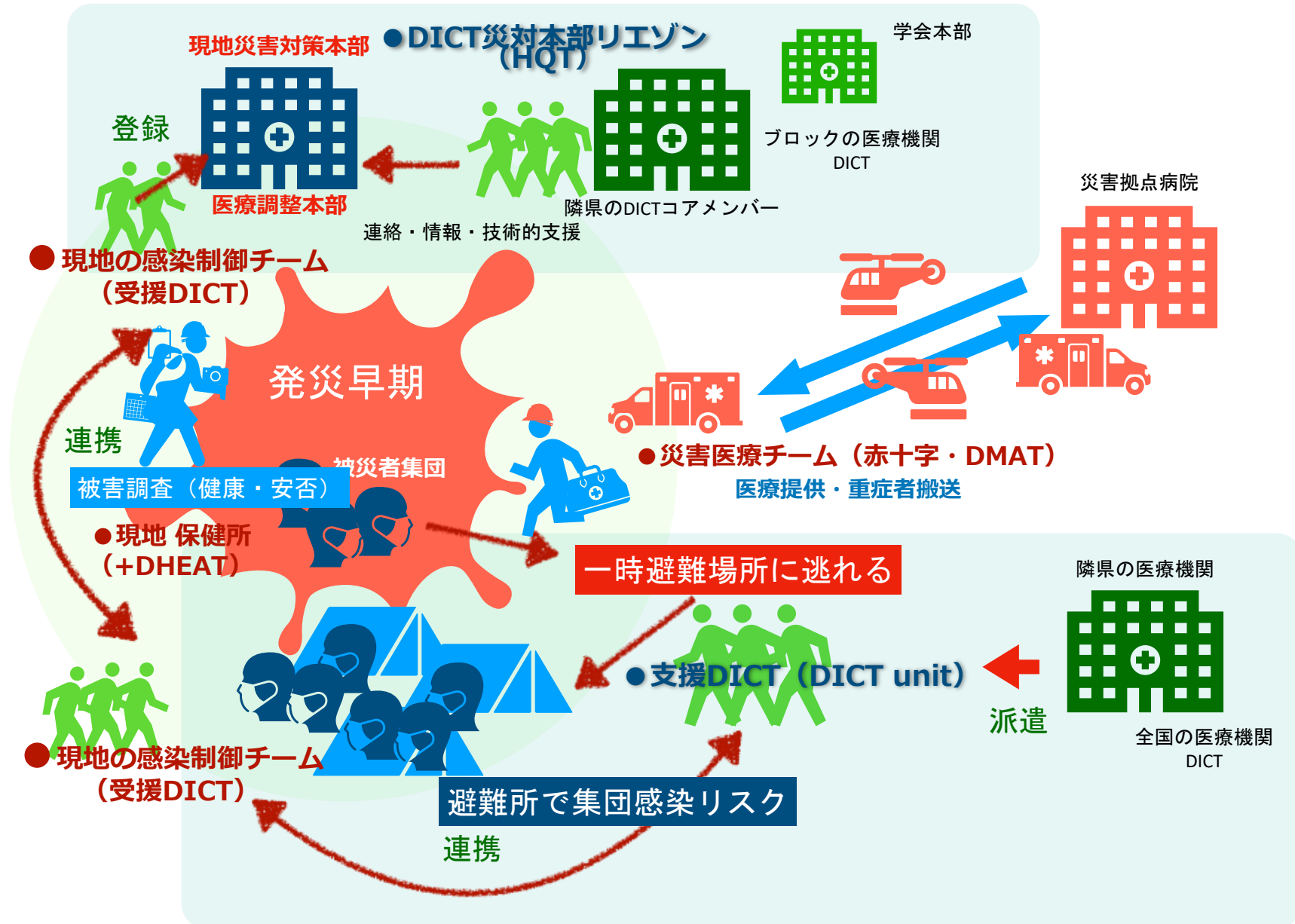
環境感染学会DICTによる支援のイメージ



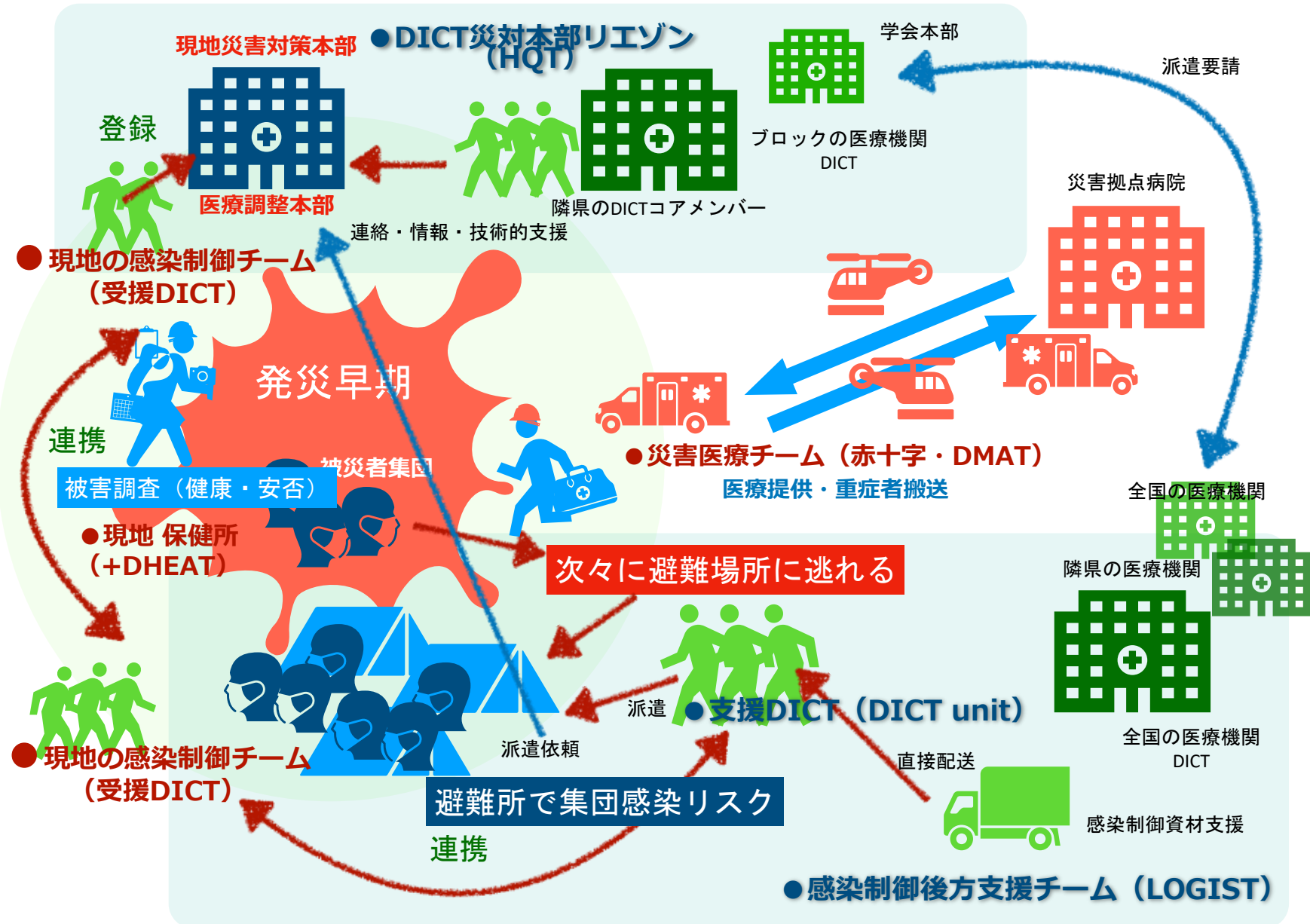
環境感染学会DICTによる支援のイメージ



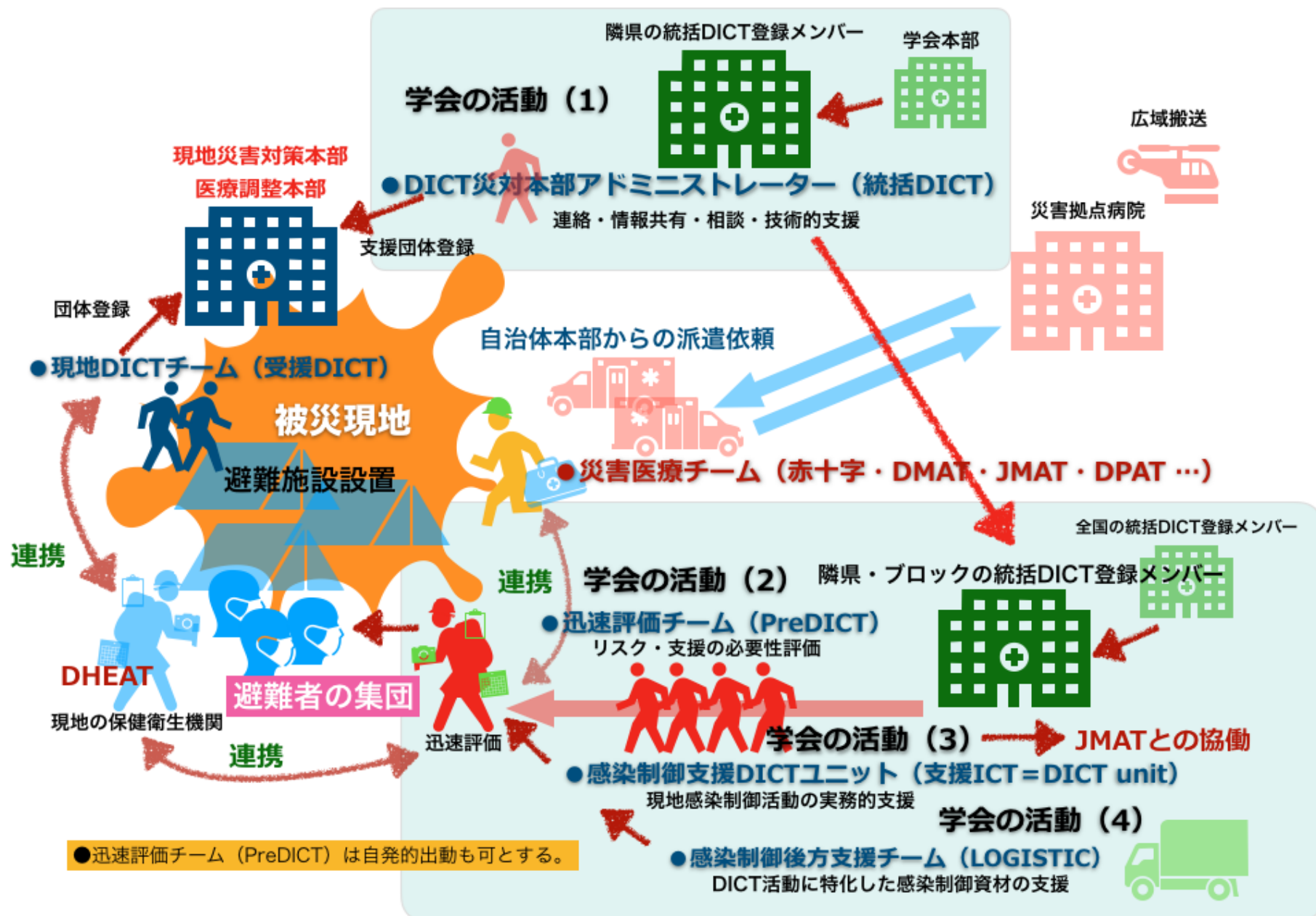
環境感染学会DICTによる支援のイメージ



環境感染学会DICTによる支援のイメージ



日本環境感染学会による支援範囲のイメージ



注：「現地の保健衛生機関」とは、必ずしも「組織」のみではなく、県の保健担当部局、保健所あるいは市町村の保健師（専門技術職員）等を含む

DICTの組織機構

日本環境感染学会
災害委員会*

*災害時感染制御検討委員会

日本環境感染学会
PreDICT

日本環境感染学会
統括DICT

日本環境感染学会
支援DICT

日本環境感染学会
LOGIST

迅速評価班

リエゾン派遣に係る学会独自の評価活動

調整本部リエゾン班[†]

[†] 厚生労働省防災業務計画に基づく

被災地活動班

調整本部登録後の活動を想定

専用物資[‡]支援班

FCTへの直接供給を想定

PreDICT : Rapid Assessment Team

HQT : Head Quarter Liaison Team

FICT : Field Infection Control Team

LOGIST : Logistic Support Team

DICTの役割分担

日本環境感染学会
JSIPC

理事長または災害時感染制御検討委員会委員長の指示で災害時感染制御支援活動を開始する

日本環境感染学会
DICT事務局

学会本部でDICT活動に関する事務的業務（連絡・共有・依頼・証明書や趣意書等の発行）を担う

日本環境感染学会
PreDICT

DMAT活動開始基準に準じ、現地で編成または域外から派遣され、初期リスク評価を担う

日本環境感染学会
統括DICT

PreDICTの報告をもとに、受援ICTあるいは支援ICTで編成・派遣され、調整本部でリエゾン業務を担う

日本環境感染学会
DICT UNIT

統括の調整により、受援ICTあるいは支援ICTにより編成・派遣され避難所での感染制御活動支援を担う

日本環境感染学会
LOGIST

賛助企業チームに働きかけ、被災地ICTに対し直接感染制御支援活動用の物的支援を実施する

DICTの構成員

日本環境感染学会
JSIPC

理事長または災害時委員会委員長（指示）

日本環境感染学会
DICT事務局

学会事務局（〒141-0022 東京都品川区東五反田5-26-6 池田山パークヒルズ 202号室 TEL：03-6721-9131／FAX：03-6721-9132）

日本環境感染学会
PreDICT

都道府県・ブロックごとに事前にPreDICTを指定
登録DICTが活動困難な場合は委員会から派遣

医療調整本部付き
統括DICT

都道府県・ブロックごとに事前に統括DICTを指定
登録DICTが活動困難な場合は支援DICT派遣

日本環境感染学会
DICT UNIT

都道府県・エリアごとにあらかじめICTを指定
指定ICTが活動困難な場合は域外から派遣

日本環境感染学会
LOGIST

委員会が賛助企業チームの担当リエゾンに働きかけ
ICT活動に特化した支援物資を調達

発災時の動き

日本環境感染学会

JSIPC

発 災

日本環境感染学会

DICT事務局

DMAT展開の情報を入手し、コアメンバーで派遣検討

日本環境感染学会

PreDICT

ブロックごとのICTと連携して
被災地の対策本部を訪問しDICT待機を伝達

日本環境感染学会

統括DICT

被災地医療調整本部の要請を受けて
委員会から対策本部リエゾン（統括DICT）派遣

日本環境感染学会

DICT UNIT

統括DICTの指示調整を受けてUNIT編成
受援DICTが活動困難な場合は域外から支援派遣

日本環境感染学会

LOGIST

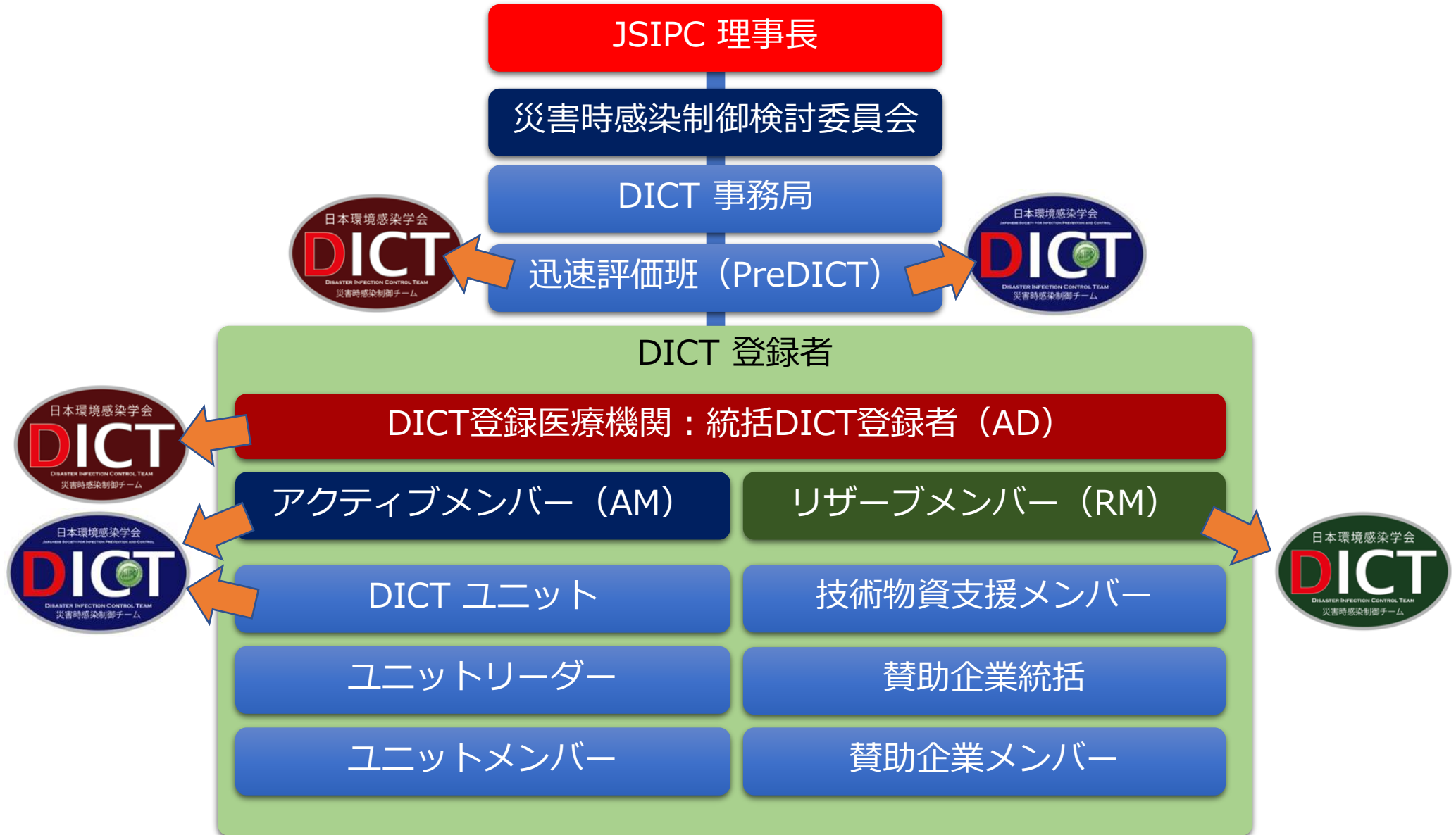
委員会が賛助企業チームの担当リエゾンに働きかけ
現地DICTに特化した支援活動用の物資を調達

DICTの組織機構図

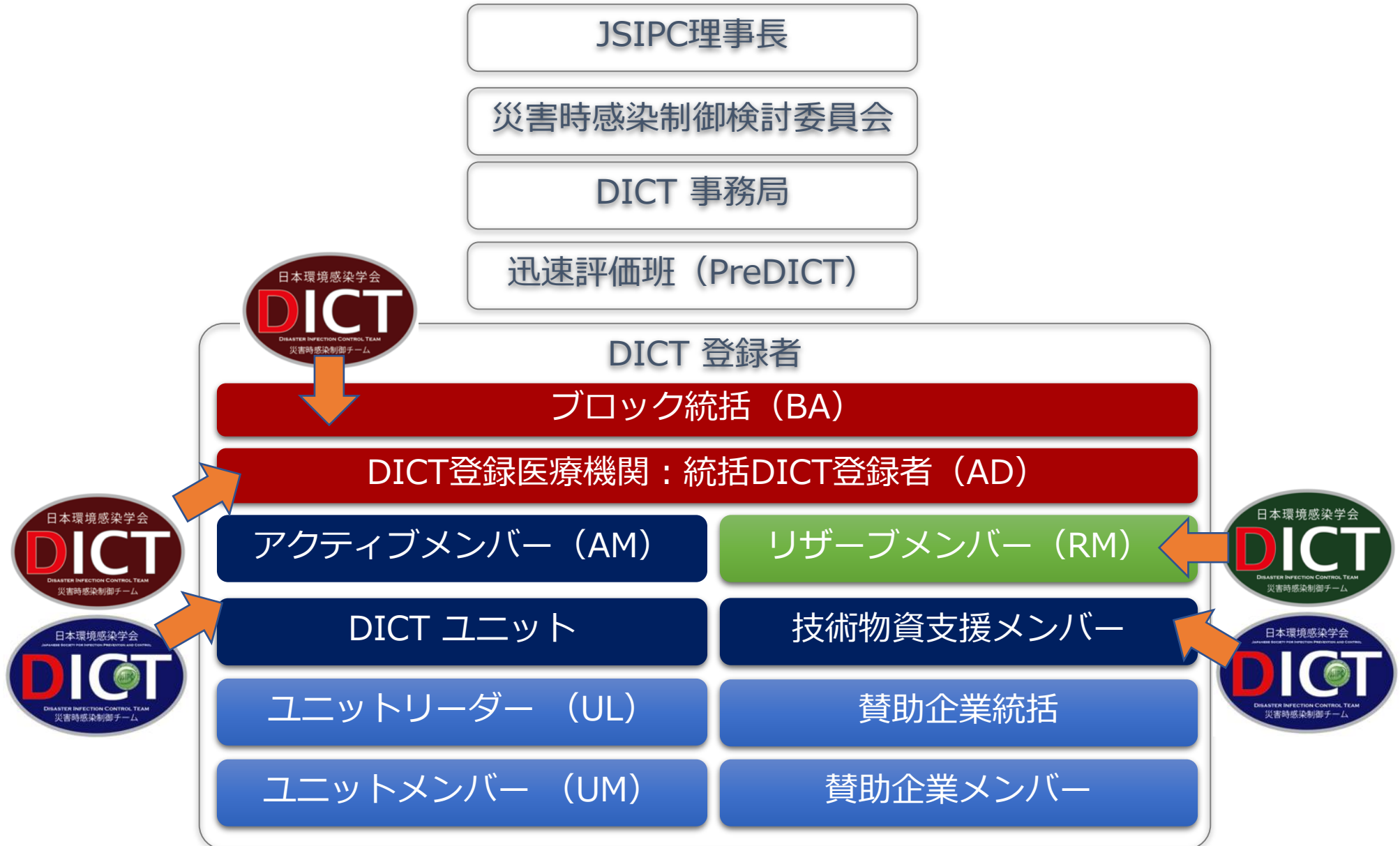
DICTの組織機構図



DICTの組織機構図



DICTの組織機構図



ブロック内（隣県）支援のイメージ

DICTブロック統括（BA）

DICT登録医療機関：統括DICT登録者（AD）

+ アクティブメンバー（AM）



ブロック内被災地に派遣される支援 DICT ユニット編成

ユニットリーダー（AD） = 統括DICT登録者（AD）の ICD

ユニットメンバー（UM） = DICT登録医療機関のDICT-AM

- | | |
|--|------|
| ・ 感染制御医（ICD） | 1名 |
| ・ 感染管理認定看護師（CNIC） | 1～2名 |
| ・ 感染制御専門/感染制御認定薬剤師（ICPS, PCI）
or 感染制御認定微生物検査技師（ICMT）
or ICT経験のある歯科医師（ICDD） | 1名 |
| ・ 業務調整・連絡員 | 1名 |

ブロック外支援のイメージ

被災ブロック外のDICTブロック統括（BA）

DICT登録医療機関：統括DICT登録者（AD）

+ アクティブメンバー（AM）



ブロック外被災地に派遣される支援 DICT ユニット編成

ユニットリーダー（AD） = 統括DICT登録者（AD）の ICD

ユニットメンバー（UM） = DICT登録医療機関のDICT-AM

- | | |
|--|------|
| ・ 感染制御医（ICD） | 1名 |
| ・ 感染管理認定看護師（CNIC） | 1～2名 |
| ・ 感染制御専門/感染制御認定薬剤師（ICPS, PCI）
or 感染制御認定微生物検査技師（ICMT）
or ICT経験のある歯科医師（ICDD） | 1名 |
| ・ 業務調整・連絡員 | 1名 |

DICTの地方ブロック 都道府県DICTの構成

- 北海道ブロック：北海道
- 東北ブロック：青森県，岩手県，宮城県，秋田県，山形県，福島県，新潟県
- 関東ブロック：茨城県，栃木県，群馬県，埼玉県，千葉県，東京都，神奈川県
- 中部ブロック：富山県，石川県，福井県，山梨県，長野県，岐阜県，静岡県，
愛知県，三重県
- 近畿ブロック：滋賀県，京都府，大阪府，兵庫県，奈良県，和歌山県
- 中国ブロック：鳥取県，島根県，岡山県，広島県，山口県
- 四国ブロック：香川県，愛媛県，徳島県，高知県
- 九州・沖縄ブロック：福岡県，佐賀県，大分県，長崎県，熊本県，宮崎県，
鹿児島県，沖縄県

支援DICTの組織機構図

